令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和5年度4月18日に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、次の通り概要をお知らせします。

1 学力面について

平岡南中学校の平均正答率は、右表に示した全国・兵庫県と比べて国語・数学は同程度もしくはやや低い傾向を示しています。英語はやや低い傾向を示しています。特に各教科とも、記述式で回答する問題については正答率が低く、無回答率が高い傾向にあります。

正答率		
教科	兵庫県(公立)	全国(公立)
国語	69%	69.8%
数学	52%	51.0%
英語	47%	45.6%

※文部科学省・加古川市教育委員会の方針により、各学校の正答率は公表しないこととします

《国語の成果と課題》

「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」「相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する」など、『話すこと』『聞くこと』については、基礎的な知識や能力が定着していることが、調査結果から読み取ることができます。

一方で、『書くこと』『読むこと』について課題が見られました。特に、「原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す」「自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く」「現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」といった、記述式の問題に課題が見られ、無回答率が比較的高い数値を示しています。また、国語の学習への関心・意欲・態度に関する調査結果及び読書や活字に触れる機会についても課題が見られました。

今回の調査を踏まえ、自らが学んできた経験や知識を活かして比較・表現する等の学習を充実させることが重要であると考え、これらの力を身につけることができる授業展開を目指していきます。

《数学の成果と課題》

『数と式』の領域については、これまでの学習の取組が成果として表れていることが調査結果から読み取ることができます。

しかし、統計を用いたグラフ作成や累積度数の表現などに課題がみられ、特に「2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する」「空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ」などの『図形』『関数』『データ活用』の領域については課題が見られました。これらの領域については無回答率も比較的高い値を示しています。

一方で、数学の学習への関心・意欲・態度については積極的に取り組もうとする結果が見られました。本校の生徒は、数学の学習に一生懸命取り組んでいることがわかります。

今後は、ICT機器を積極的かつ効果的に活用し、協同的探究学習を柱とした授業を展開することで、「できる学力」と「わかる学力」の両立を目指していきます。

《英語の成果と課題》

「説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する」など『聞くこと』については、これまでの学習の取組が成果として表れていることが調査結果から読み取ることができます。

しかし、「書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する」「会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」「メールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する」などの『読むこと』の領域については課題が見られ、また「メールの英文を依頼する表現に書き換える」などの『書くこと』については無回答率が比較的高い値を示すなど、課題が見られます。全国的に正答率が低かった『話すこと』については、本校生徒も正答率が低く、無回答率が高い調査結果が見られました。

今後は、『話すこと』『書くこと』など表現する力を高めるために、協同的探究学習を柱とした授業展開を進めていきます。

2 生徒質問用紙から

良かったところ《全国・県と比較して集計値が高かった項目》

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれている
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている
- 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を頻繁に活用している
- 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う
- 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだ

これからの課題《全国・県と比較して集計値が低かった項目》

- ▲起床・就寝時間が決まっている
- ▲朝食を毎日食べている
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う
- ▲活字に触れる機会がある
- ▲平日・休日共に学習時間が長い
- ▲1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた
- ▲学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている
- ▲あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

3 今後の取組

以上の結果から、本校の生徒は心優しく思いやりの心があり、学校生活内外において素直な心を持っていることが調査結果に顕著に表れています。

校内でも、男女問わず生徒自身でお互いに声掛けをして、困っている仲間や友人に手を差し伸べている場面がよく見られます。また、教職員とも良好な人間関係を育んでいます。

一方で、規則正しい生活習慣を保つための「起床・就寝時間が決まっている」「朝食を食べる」などに改善を図り、「平日・休日共に学習時間が長い生徒が少ない」「活字に触れる機会が少ない」などの学習習慣の改善へとつなげていく必要があることが、調査結果に表れています。

以上の調査結果を受け、引き続き家庭と学校が連携を密にしながら、学力向上はもちろんのこと、本校教育目標である「こころ豊かに たくましく生きる 生徒の育成」の実現に向けて、毎日楽しいと思える学校づくりに取り組んでいきます。また、協同的探究学習推進のため、生徒の「わかる学力」育成を目指し、多様な考えができ、答えが一つに定まらない非定型問題を週に一度課題として出します。生徒の回答を集約し、生徒に還元していきます。

今後とも、本校教育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。